

Neuropsychological profile of early cognitive impairment in cerebral small vessel disease.

Misa Seki, Hiroshi Yoshizawa, Megumi Hosoya, Kazuo Kitagawa.

Cerebrovascular Diseases. DOI: 10.1159/000522438 Published online: April 4, 2022

目的: 脳小血管病 (CSVD) は白質病変 (WMH)、ラクナ梗塞 (LI)、脳微小出血 (CMBs)、血管周囲腔拡大 (PVS) を包括した小血管に起因した種々の脳の変化であり、血管性認知症 (VaD) の主要な原因として知られている。VaD を軽度認知障害 (MCI) の段階で早期に診断することは認知症の進行予防に重要である。しかし CSVD における初期 MCI 患者の神経心理学的特徴については明らかになっていない。私たちは CSVD の初期 MCI 患者の神経心理プロフィールと、CSVD の各型による違いについて検討した。

対象: 当科の臨床研究 (TWMUCVD) に登録された外来患者の中で、失語症がなく MoCA-J < 26 点の軽度認知障害 (MCI) で、かつ詳細な神経心理検査を施行した 139 例を対象とした。MMSE と MoCA-J 以外の各神経心理検査は標準偏差に統一したのち、因子分析を用いて潜在的な認知機能因子を抽出した。CSVD と脳萎縮を 1.5T の MRI を用いて評価した。認知機能因子と CSVD もしくは脳萎縮との関連は偏相関解析を用いた。

結果: 139 例は平均年齢 75 歳、男性 87 名、平均 MMSE 26.5 点、平均 MoCA-J 21.1 点。因子分析により神経心理検査から 3 つの因子、即ち遂行機能、記憶、注意を抽出した。CSVD と 3 因子の関連では、WMH の重症度は遂行機能低下と記憶障害に関連した。WMH のなかで脳室周囲病変 (PVH) は遂行機能と記憶に関連する一方で、深部皮質下白質病変 (DWMH) は記憶のみに関連した。LI と CMBs は遂行機能に関連し、PVS はいずれの認知機能因子にも関連しなかった。脳萎縮と認知機能因子の関連は、前頭葉と頭頂後頭葉の萎縮が注意機能と記憶に関連し、内側側頭葉は記憶のみと関連した。

結語: CSVD の初期 MCI 患者では特に遂行機能低下と強い関連を示し、記憶障害との関連も示された。WMH の中では DWMH と PVH で神経心理プロフィールに違いがみられた。

